

令和6年度 学校評価書

1 学校の概要

学校名	東かがわ市立白鳥小中学校	校長	小	有岡 博祥
			中	政岡 克己
住所	〒769-2705 東かがわ市白鳥757番地1	TEL	小	0879-26-3112
			中	0879-26-3113
HP	https://www.fureai-cloud.jp/shirotori/	E-mail	小	shirotori-es@higashikagawa.ed.jp
			中	shirotori-jh@higashikagawa.ed.jp

児童・生徒数 学級数 (R6.5.1)	小	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	小学校計
		45名	47名	37名	35名	51名	57名	22名	294名
		2学級	2学級	2学級	2学級	2学級	2学級	4学級	16学級
	中	7年		8年		9年		特別支援	中学校計
		50名		53名		52名		12名	167名
		2学級		2学級		2学級		3学級	9学級

教職員 (R6.5.1)		校長	教頭	教員	養護	栄養	事務	庁務員
	小	1名	1名	19名	1名	1名	1名	1名
	中	1名	1名	17名	1名	0名	1名	1名

学校教育 目標	夢や希望に向かって自ら考え行動し、心豊かにたくましく生きる白鳥の子 ～ 気づく かかわる 創り出す ～ 校訓（自主・剛健・優美）
経営の重点	<ol style="list-style-type: none"> 1 確かな学力の育成（わかる授業の実践に努め、確かな学力の定着を図り、自ら学び、自ら考え、ともに学び合う児童生徒の育成） 2 豊かな心の育成（好ましい人間関係づくりを通して、認め合い支え合う集団の中で、ともに生きる心をもった児童生徒の育成） 3 健やかな体の育成（生涯にわたり健康で安全な生活を営む力を備えた、心身共にたくましい児童生徒の育成） 4 小中合同現職教育を核とした教職員の資質能力の向上 5 学校行事及び校務分掌等の見直しによる業務改善 6 保護者、地域、関係機関との連携による開かれた学校づくり
指導の重点	<ol style="list-style-type: none"> 1 学力の向上 <ol style="list-style-type: none"> (1) 小中全教職員により9年間の系統性と発達段階を踏まえた指導方法の改善と評価の工夫を行う。 (2) 家庭との連携を図り、家庭学習の習慣化を図る。 2 生徒指導の充実 <ol style="list-style-type: none"> (1) 共通の指導方針のもと小中全教職員が情報を共有する指導体制を構築する。 (2) 関係機関や家庭との連絡を密にし、共通の指導方針を持って指導にあたる。 3 教職員の資質能力の向上 <ol style="list-style-type: none"> (1) 時代の変化や生徒の変容等に対応するための資質能力の向上を図る。 (2) 世代交代を見据え、次期リーダーの育成に努める。 4 小中一貫教育の推進 <ol style="list-style-type: none"> (1) 小中教職員の互いの良さを生かした指導を通して「学びと成長の連続性」を図る。 (2) 小学校5・6年生を対象として中学校教員による教科担任制を実施し、系統的な指導を行う。

2 学校教育評価

	評価項目	自己評価	学校関係者評価
確かな基礎学力の定着	◎基礎的・基本的な学力の定着、伸長のための適切な指導が計画的に行われているか。		
	基礎・基本の定着に向けた指導ができていますか。	B	B
	個に応じた指導の工夫と充実に努めているか。	B	
	家庭での学習習慣(宿題, 自主学習)定着の推進に努めているか。	B	
	主体的な学びを引き出すために課題探求型学習を行っているか。	B	
	他文化理解を通して、グローバルな人材育成に努めている。	A	
心豊かな温かい人づくり	◎豊かな心を育み、正しい規範意識と生活習慣を身に付けた子どもの育成が図られているか。		
	基本的な生活習慣を身に付けさせることができていますか。	B	B
	人権意識, 人権感覚を高める指導を行うことができていますか。	B	
	道徳の授業を通して、考えを深め、道徳性を高める指導を進めていますか。	B	
	共に生活する児童生徒を認め、助けあう集団づくりや指導に努めているか。	B	
たくましく生きる力の育成	◎様々な体験を通して、心身ともに健康でたくましく生きる力を培うことができていますか。		
	心身の健康に関する指導が計画通り進められているか。	B	B
	児童生徒の規範意識を高め、ルールやマナーを守った落ち着いた学校生活となるよう働きかけていますか。	B	
	生活, LT, 特別活動(集団宿泊学習, 職場体験学習, 修学旅行等を含む)が児童生徒のキャリア形成の上で有意義な学習となっているか。	B	
教職員組織と研修	◎教育課題を達成するため教職員組織や指導力を向上させるための研修内容になっているか。		
	校内研修を適切に計画して研修を進め, 小中一貫校として全教職員が連携して学校課題の解決を図っているか。	B	B
	職員間の共通理解のもと, 日々の指導にあたっているか。	B	
	学校行事は目的に沿った内容や方法を検討し, 協力的に運営できているか。	B	
	県や地区主催の研修会及び校内研修会等に積極的に参加し, 資質向上に努めているか。	B	

教職員の働き方改革	◎教職員のワーク・ライフ・バランスを考慮した業務の適正化等が図られているか。		
	業務の効率化や適正化が図られているか。	B	B
	職場環境（物品・ICT機器の活用等）は整えられているか。	A	
保護者・地域との連携	◎学校教育の充実のために保護者や地域との連携協力が図られているか。		
	家庭や地域との連携は、円滑に行われているか。	B	B
	児童養護施設との連携は計画的かつ必要に応じて行えているか。	B	
	教育活動に地域の教材（自然、文化、人、物）を生かすことができているか。	A	
施設・設備	◎児童生徒が安全に楽しい学校生活を送れる施設・設備になっているか。		
	校内の安全点検及び整備は、定期的かつ必要に応じて行っているか。	A	A
	施設や備品等、教育環境の整備が計画的にできているか。	A	
	非常時を想定した防犯・防災指導を計画的に行うことができているか。	B	

評価 [A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや改善の必要がある D：改善の必要がある]

3 成果と課題 [○成果 ●課題]

<p>○小学校では昨年度の取組を受け継ぎ、委員会で靴の整頓から取り組み、ほぼ徹底することができた。</p> <p>○人権・同和教育の授業や人権講演会（生徒・小中教員・保護者参加）を通して、児童生徒の人権意識と人権感覚の高まりがみられ、互いを認め合い大切にしようとする意識が芽生えた。</p> <p>○1～9年縦割り活動である「わくわくふれあい活動」や行事、自主的な交流活動での小小交流、小中交流により、児童生徒が互いを認め合い、助け合う集団づくりと自己有用感の向上が見られる。</p> <p>○学校だよりや学年(団)だより、学級通信、HP ブログの充実やメール配信の使用など、メディアを活用して保護者とタイムリーな情報共有を図ることができた。</p> <p>○校内の安全点検及び整備は、定期的に点検を行い、迅速に修繕個所の対応ができている。</p> <p>●どの授業にも落ち着いて学習に取り組み、児童生徒アンケートではどの教科の授業も分かりやすいと答えているが、十分な基礎学力の定着には至っていない。</p> <p>●朝読書以外で本を読む時間が少なく、読書習慣の形成が必要である。</p> <p>●「心配ごとや悩みごとが相談できる環境」に改善はみられるが、中学校では十分な自己肯定感の高まりには至っておらず、援助希求の態度の育成や自尊感情を高める取組が必要である。</p> <p>●行事や組織体制等を目的に沿って見直し、教職員が子どもと向き合う時間の確保に努める。</p>
--

4 来年度の経営の重点

<ol style="list-style-type: none"> さらなるキャリア教育の充実を目指し、様々な教育活動を通して、自らの生き方を考える中で学びの意義を理解し、生涯にわたって学び続ける姿勢を身に付けられるようにする。 系統的な教育実践を推進し、小中一貫教育のメリットを高められるようにする。 教育活動の運営の工夫と教職員の意識改革に努め、教職員の働き方改革を推進する。
--

5 来年度の指導の重点

<ol style="list-style-type: none"> 学習・生活習慣の形成と基本事項の定着を図るため、わかる授業の実践に努める。 「地域に学ぶ」という視点を大切にし、地域の人的・物的資源のさらなる活用を図り、学習指導を充実させる。 新しい白鳥小中文化を築くための教育活動の工夫改善により、児童生徒の一層の伸長を図る。
